

校内ふれあい教室での支援に関する研究

—ソーシャルスキル・トレーニングの実践—

2022/3

四日市市教育委員会 教育支援課

はじめに

学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する旨が示されています。そのうち、情報活用能力の育成においては、必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることの重要性が示されています。

四日市市では、本年度、児童生徒1人1台タブレット端末や大型提示装置などの校内環境を整備しました。タブレット端末等のICT機器を、教科のみならず教育活動全般で日常的に活用することで情報活用能力の育成を進めています。

また、不登校の課題に対しては、登校サポートセンターを核とした支援体制の充実を図るとともに、中学校6校に設置している校内ふれあい教室への通級やICTを活用した在宅学習など多様な教育機会の確保により社会的自立への支援を行っています。

こうした本市の現況を鑑み、本年度は、2つの課題研究に取り組みました。

1つ目は、生徒会活動にクラウドを導入することが活動の活性化につながるかを検証しました。2つ目は、校内ふれあい教室を利用する生徒に対する支援にSST（ソーシャルスキル・トレーニング）を取り入れることで対人関係に必要なスキルが高まるかを検証しました。

その成果を調査研究報告書として、ここにまとめました。本研究の成果が、学校・園の日々の教育実践に活用されることを期待します。

末尾になりましたが、本課の研究調査を進めるにあたって、御指導・御助言いただいた国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官の山森 光陽様をはじめ、研究協力員並びに調査・実践面で御協力いただきました学校等の関係者の皆様に心から感謝の意を表します。

令和4年3月

四日市市教育委員会教育支援課
参事兼課長 稲毛 弥生

— 目 次 —

1 問題	1
2 目的	3
3 方法	3
4 結果	8
5 考察	16
[引用文献]	18
[資料]	19

校内ふれあい教室での支援に関する研究 —ソーシャルスキル・トレーニングの実践—

1 問題

1.1 不登校の現状と四日市市の取り組み

文部科学省の「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」によると、不登校児童生徒の数は小・中学校合わせて18万人を超え、不登校は依然として日本の教育の抱える大きな問題の1つであることを示している。特に中学校では、全生徒の3.9%が不登校であり、「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」（平成28年7月29日 不登校に関する調査協力者会議）でも、「取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ること」と位置付けられている。その状況の中で、不登校児童生徒の登校にあたっての受入体制として「不登校児童生徒が登校してきた場合は、温かい雰囲気迎え入れられるよう配慮するとともに、保健室、相談室及び学校図書館等を活用しつつ、徐々に学校生活への適応を図っていけるような指導上の工夫が重要である」（令和元年10月25日 不登校児童生徒への支援の在り方について）と別室登校の必要性が述べられており、教室以外に生徒が登校できる場を設ける学校が増えている。

四日市市では、令和2年度より不登校の生徒を支援するため、学校内の別室で学習できる「校内ふれあい教室」を中学校3校に設置した（以下、校内ふれあい教室）。登校はできるが教室に入りづらい生徒を対象に、専用の教室と不登校対応教員（学級担任や教科担当をしない専任の教員）を置くことできめ細かな支援ができる体制を整えた。令和3年度には設置校を6校に拡大し、さらに多くの生徒を受け入れる体制づくりを進めている。また、「四日市市登校サポートセンター」（以下登校サポートセンター、平成30年度以前は「適応指導教室」）と連携し、校内体制についての検討や情報共有、具体的なケースの検討を行うなど、校内ふれあい教室設置校での円滑な支援が進められるような取り組みを行っている。

1.2 不登校児童生徒の抱える課題とソーシャルスキル・トレーニングの重要性

不登校児童生徒の抱える課題の1つとして、対人関係の乏しさがあげられる。前述の文部科学省の調査においても、中学校における不登校の要因の17.2%が「いじめを除く友人関係をめぐる問題」だった。本市でも10.0%であり、「無気力、不安」の40.0%に次ぐ第二の要因となっている。不登校児童生徒が社会的に自立していくためには、対人関係に必要なスキルを身につけることが必要であると考えられる。

対人関係や集団生活を営むために必要なスキルを伸ばす支援の1つとして、ソーシャルスキル・トレーニング（Social skills training；以下SST）がある。江畑（2019）は、SSTを「人が社会で生きていくために必要な能力を訓練すること」としており、「本来、人は様々な人と出会い、その関わりの中で体験的に人間関係に必要な能力を学習する」が、「生活スタイルや子どもの遊びの変化など、人間関係が希薄化している今日においては、意図的に

SSTを実施することが求められる」と述べている。また、山口・荒嶋（2018）は、「生徒間の好ましい人間関係づくりを支援していくためには、相手に共感したり、相手に配慮しながら上手に自己主張したり、協力して課題を解決したりしていく社会性の育成が急務」であり、「SSTは、不登校やいじめ、暴力行為など児童・生徒の学校生活不適応や問題行動の解決、人間関係の改善のために重要」だと述べている。

1.3 学校での SST の先行研究

学校での SST の研究は数多く行われており、効果が報告されている。その中で、学級や学年、学校単位で SST を行うことで児童生徒の社会的能力が向上し、人間関係を良好にする効果が見られることが分かっている。

曾山（2012）は、小学1～6年生 698 人を対象に、週に1度、継続的に SST を行った結果、児童の学校適応感を促進したと報告している。渡邊（2017）は、中学1～3年生 313 人を対象に、5回の SST を行い、生徒の自己評定において社会的スキル得点と関係向上得点が高まるという効果を報告した。山口・荒嶋（2018）は、中学1年生 242 人を対象に、4回の SST を行い、集団活動スキルや同輩とのコミュニケーションスキルに向上が見られたことを報告した。有本（2019）は、学習面や行動面で著しい困難を示す小学1・3・5年生に個別に SST を、その児童が在籍する学級に学級単位で 10 回の SST を行った結果、個別に SST を行った児童の不適応行動に改善傾向が見られたと報告した。江畑（2019）は、小学6年生を対象に2回の SST を行った結果、集団への参加に有意な相互作用が見られたと報告した。

1.4 不登校児童生徒への SST の先行研究

不登校児童生徒に対しても SST を活用した支援の効果が報告されている。小野（2001）は、対人関係が原因で不登校となった中学2年生を対象に、大学の研究室で SST を含む総合的支援を行った結果、生徒の登校率が上がったことを報告している。小野・小林（2002）は、主張的スキルの欠如に起因する問題場面の回避反応から不登校となった中学3年生を対象に、大学の研究室で SST を含む総合的アプローチを行った結果、生徒の登校率が上がったことを報告している。また、佐々木（2007）は、担任の他児童への指導の恐怖感と母との分離不安から教室に入ることができなくなった小学2年生を対象に、校内の別室でスクールカウンセラーが個別での SST を行った結果、教室復帰ができたことを報告している。小西（2010）は、義務教育の年齢層までの、外出は可能であるが学校は全欠状態の不登校児童生徒を対象に、通所機関での集団場面における週1回 60 分の SST を行った結果、中学3年生の3月までに、完全に不登校状態を継続する児童生徒の数が減ったと報告している。不登校児童生徒に対する支援に SST を活用することで、スキルの獲得により対人関係が変化したこと、児童生徒に自信が付き、登校しやすくなったことが報告されている。

また、曾山・本間・谷口（2004）は、中学生の社会的スキルを不登校群と登校群で比較し、

不登校群は登校群に比べ友人との関係づくりのスキルが低いと報告している。皿田(2012)は「多くの不登校に共通してみられるのは、対人場面でのとまどい、不安である」と指摘し「対人関係のスキルの学習を狙った SST は欠かせないものである」と述べており、SST は不登校児童生徒への支援の方法として有効であると言える。

1.5 校内ふれあい教室での支援に SST を取り入れることにより期待できる効果

ここまで示した通り、SST を行うことで、対人関係の課題が解決されたり、好ましい方向に変化したりすることが報告されており、不登校児童生徒への支援にも SST は取り入れられている。しかしながら、その多くが学校外において行われたものであり、学校に別室登校している児童生徒を対象とした SST の研究は少ない。校内ふれあい教室を利用する生徒たちは、登校はできるが教室に入りづらい気持ちを持っていたり、対人関係に必要なスキルに課題を抱えたりしていることが考えられるが、学校内に専用の居場所があり、専任の教員がきめ細かく支援にあたることのできる環境にある。計画的に登校できる機会がある生徒たちに、学校内で SST を行うことで、対人場面でのとまどいや不安を減らし、対人関係や集団生活を営むために必要な能力を伸ばすことが期待できる。

2 目的

本研究の目的は、校内ふれあい教室を利用する生徒に対する支援に SST を取り入れることで対人関係に必要なスキルが高まるかを検証することである。SST を行い、生徒と不登校対応教員を対象に事前、事後、遅延の3回の調査を実施し、結果を検証する。

3 方法

3.1 研究概要

令和3年10月から11月に、登校サポートセンターの研修員(以下、研修員)が校内ふれあい教室で SST を実践する。実践の前後に、校内ふれあい教室を利用する生徒と不登校対応教員に対し実施に関わる調査を行い、その結果の比較により、対人関係に必要なスキルが高まるかについて検証する。本研究での対人関係に必要なスキルとは、飯田・石隈(2006)の「学校生活スキル尺度(54項目)」で測定される集団活動スキル(12項目)と、菊池(1988)の「KiSS-18(18項目)」で測定される社会的スキルのこととする。

3.2 研究対象

校内ふれあい教室設置校6校のうち、令和2年度設置校である3校で4月から校内ふれあい教室を利用する生徒および不登校対応教員を対象とする。

3.3 研究方法

3.3.1 研究対象校での実践

(1) 事前アセスメントの実施

校内ふれあい教室を利用する生徒について、不登校対応教員から聞き取りを行う。聞き取る内容は、資料1のとおりである。

(2) 校内ふれあい教室を利用する生徒への SST の実施

10～11月に、研修員が校内ふれあい教室を利用する生徒に SST を行う。1～2週間に1回の間隔で計3回実施する。実施する SST は、生徒の状況をよく知る不登校対応教員が、Table 1の中から選択し、決定する。

Table 1 : SST の内容とねらい

実施する SST	ねらい
1. あいさつ	人と仲良くなるきっかけの1つとして、あいさつができるようになる
2. 伝える	誤解や間違いのないように、自分の考えや気持ちを説明できるようになる
3. 聴く	耳と目と心を使って人の話を聴けるようになる
4. お礼を言う	感謝の気持ちを言葉で伝えられるようになる
5. 質問する	自分がわからないことや気になることを質問できるようになる
6. 頼む	人をお願いして協力してもらうには、どう声をかければよいか知る
7. 断る	自分の意にそぐわないときに、相手との関係を大切にしながらも、上手に断れるようになる

SST は、渡辺・原田 (2015)、石黒・星 (2018) を参考に実施

(3) 生徒を対象とした調査

生徒を対象とした対人関係に必要なスキルに関する調査を、SST 実施前 (事前)、3回目の SST 実施後 (事後)、3回目の SST 実施から2週間後 (遅延) の計3回行う (以下、事前、事後、遅延)。生徒が回答を拒んだ場合、無理に回答させることは避ける。

(4) 不登校対応教員を対象とした調査

不登校対応教員を対象とした対人関係に必要なスキルに関する調査を、事前、事後、遅延の計3回行う。また、3回目の SST 実施から2週間後に、アンケートを行う。アンケートは資料2のとおりである。

3.3.2 検証方法

本研究では、飯田・石隈（2006）の「学校生活スキル尺度（54項目）」の集団活動スキル（12項目）と、菊池（1988）の「KiSS-18（18項目）」で測定される社会的スキルの2つの尺度を用いる。集団活動スキルの回答は、「とてもよくあてはまる」「ややあてはまる」「ややあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4件法、社会的スキルの回答は、「いつもそうだ」「たいていそうだ」「どちらともいえない」「たいていそうでない」「いつもそうでない」の5件法で求める。得点化は、各尺度の和得点を平均することで行う。事前、事後、遅延に、それぞれ自己評価、不登校対応教員による他者評価を行い、得点の変化を見る。各尺度の項目は、Table 2とTable 3のとおりである。

Table 2 : 集団活動スキル（12項目）（飯田・石隈 2006）

-
- ・ 集団で行動するとき、自分の番がくるまで待つことができる
 - ・ 相手の立場にたって考えてみるができる
 - ・ そうじや給食などの自分の与えられた仕事をやる
 - ・ 暴力をふるったり人を傷つけることを言う前に一度止まって考えることができる
 - ・ 注意されたとき、自分の行動に問題があったかどうか考える
 - ・ 人や自分が完璧でなくても許すことができる
 - ・ まちがいがあっても素直に謝ることができない
 - ・ 先輩・後輩ときちんとあいさつができる
 - ・ 授業のグループ活動のとき、グループを組み協力して活動できる
 - ・ 授業中私語をせず、先生の言うことに集中することができる
 - ・ 苦手なクラスメートともつきあえる
 - ・ 友達とわからないところを助け合い、一緒に勉強できる
-

Table 3 : 社会的スキル (18 項目) (菊池 1988)

-
- ・ 他人と話していて、あまり会話が途切れないほうですか
 - ・ 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか
 - ・ 他人を助けることを、上手にやれますか
 - ・ 相手が怒っているときに、うまくなだめることができますか
 - ・ 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか
 - ・ まわりの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか
 - ・ こわさや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか
 - ・ 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか
 - ・ 仕事をするときに、何をどうやったらよいか決められますか
 - ・ 他人が話しているところに、気軽に参加できますか
 - ・ 相手から非難されたときにも、それをうまく片付けられますか
 - ・ 仕事上で、どこに問題があるかすぐにみつけることができますか
 - ・ 自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか
 - ・ あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか
 - ・ 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか
 - ・ 何か失敗したとき、すぐに謝ることができますか
 - ・ まわりの人たちが自分と違った考えを持っていても、うまくやっていけますか
 - ・ 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか
-

3.3.3 研究計画

研究計画は、Table 4 のとおりである。

Table 4 : 研究計画

月	本研究に関する計画	実施する内容
4	課題研究打ち合わせ会 第1回課題研究会議	・研究主題，構想の検討 ・研究主題の確定
5		
6	第2回課題研究会議 第3回課題研究会議	・研究の内容と方法の検討
7		
8		・研究対象校への依頼と説明
9	第4回課題研究会議	・実践内容，計画等，論文全体の構成確認 ・事前アンケート実施
10		・研究対象校での SST 実施 ・事後アンケート実施
11	第5回課題研究会議	・研究対象校での SST 実施 ・事後アンケート実施 ・アンケート結果分析 ・意見の集約
12	第6回課題研究会議	・研究のまとめ
1		・研究のまとめ
2	第7回課題研究会議	
3	第8回課題研究会議	

4 結果

生徒と不登校対応教員を対象とした対人関係に必要なスキルに関する調査の結果をそれぞれ示す。SSTは3校11人に実施した。そのうち、対人関係に必要なスキルに関する調査を、事前、事後、遅延の3回行った7人を分析の対象にした。

4.1 生徒を対象とした調査より

生徒を対象とした対人関係に必要なスキルに関する調査を、事前、事後、遅延の計3回行った。結果はTable 5のとおりである。

Table 5 : 生徒を対象とした調査

生徒	実施したSST	学校生活スキル (4件法)			KiSS-18 (5件法)		
		集団活動スキル			社会的スキル		
		事前	事後	遅延	事前	事後	遅延
A	伝える 質問する 頼む	3.00	3.00	2.92	2.83	2.94	2.89
B	質問する 頼む 断る	2.67	2.75	2.58	2.28	2.00	2.28
C	お礼を言う 伝える 断る	3.25	3.17	3.00	2.50	2.78	2.83
D	頼む 質問する 断る	2.92	2.83	2.50	2.56	2.78	2.56
E	伝える 質問する 断る (Fと実施)	2.83	2.92	2.92	1.56	1.61	1.61
F	お礼を言う 伝える 断る (Eと実施)	3.08	3.08	3.17	2.22	2.22	2.56
G	お礼を言う	2.50	2.67	2.67	2.00	1.61	2.17

4.2 不登校対応教員を対象とした調査より

不登校対応教員を対象とした対人関係に必要なスキルに関する調査を、事前、事後、遅延の計3回行った。結果は Table 6 のとおりである。

Table 6 : 不登校対応教員を対象とした調査

生徒	実施したSST	学校生活スキル (4件法)			KiSS-18 (5件法)		
		集団活動スキル			社会的スキル		
		事前	事後	遅延	事前	事後	遅延
A	伝える 質問する 頼む	3.00	3.00	3.08	2.28	3.50	3.44
B	質問する 頼む 断る	2.75	3.33	3.08	1.39	3.56	3.28
C	お礼を言う 伝える 断る	2.75	3.00	3.00	1.67	3.61	3.44
D	頼む 質問する 断る	2.67	3.08	2.92	1.33	3.17	2.94
E	伝える 質問する 断る (Fと実施)	2.33	2.83	2.92	1.28	3.22	3.06
F	お礼を言う 伝える 断る (Eと実施)	2.33	2.92	2.83	1.33	3.17	3.00
G	お礼を言う	3.00	3.00	2.83	1.39	1.61	1.72

4.3 各生徒の尺度ごとの得点の変化

生徒の尺度ごとの得点の変化をグラフで表した結果は、以下のようになった (Figure 1～7)。

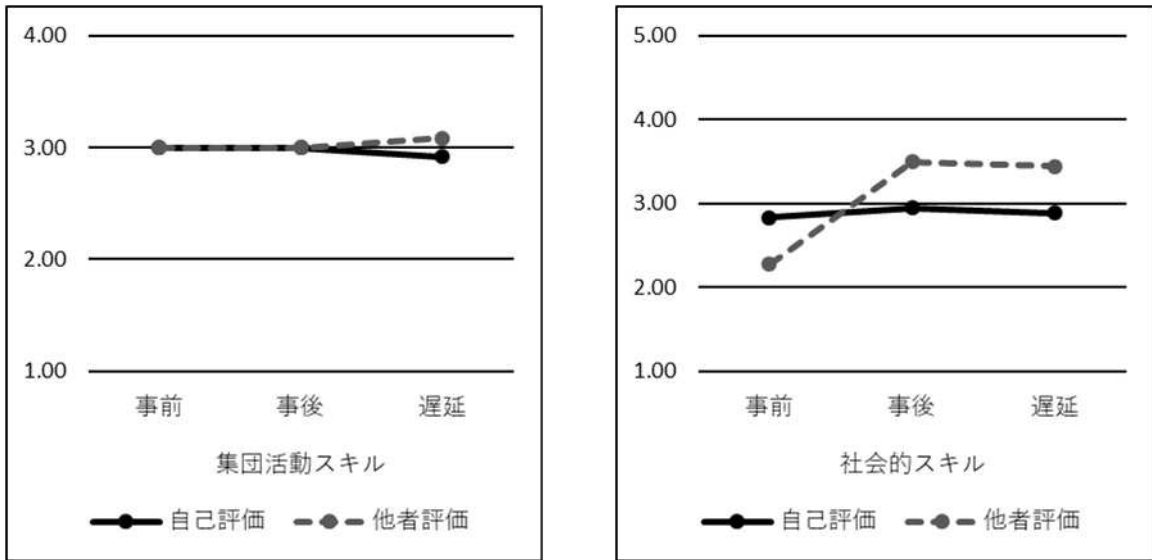


Figure 1 : 生徒 A

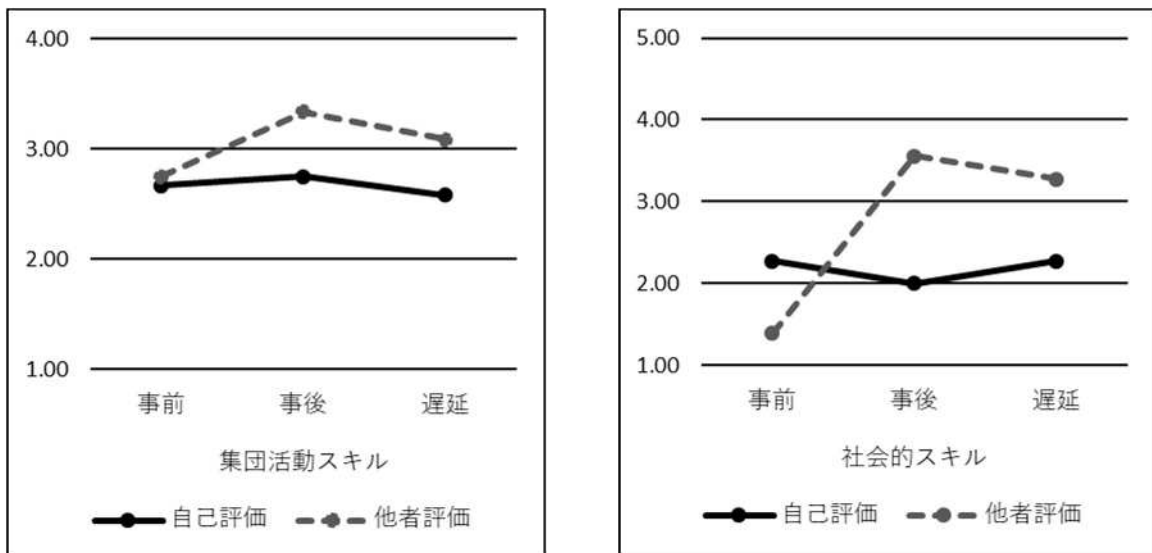


Figure 2 : 生徒 B

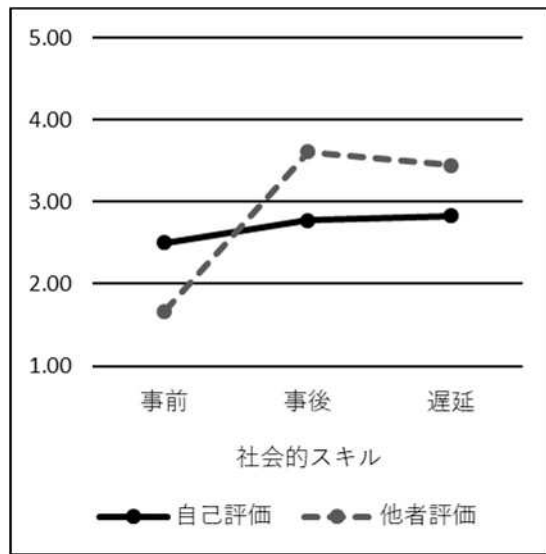
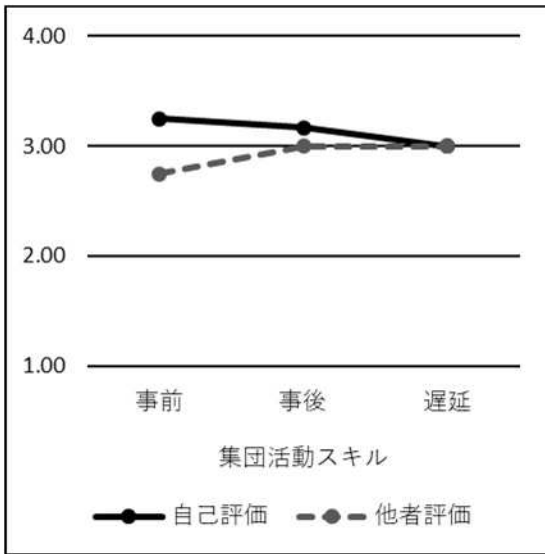


Figure 3 : 生徒 C

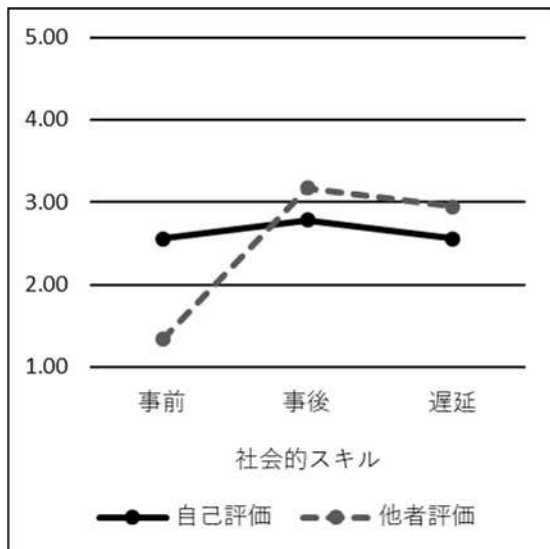
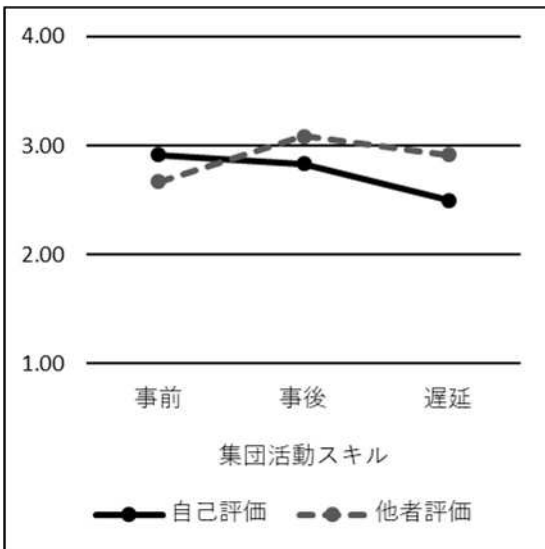


Figure 4 : 生徒 D

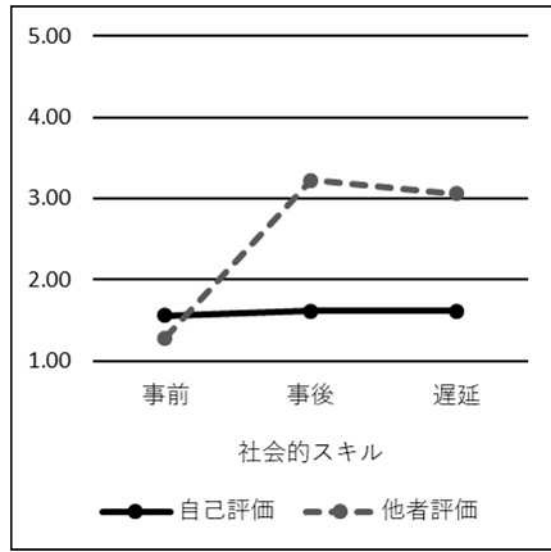
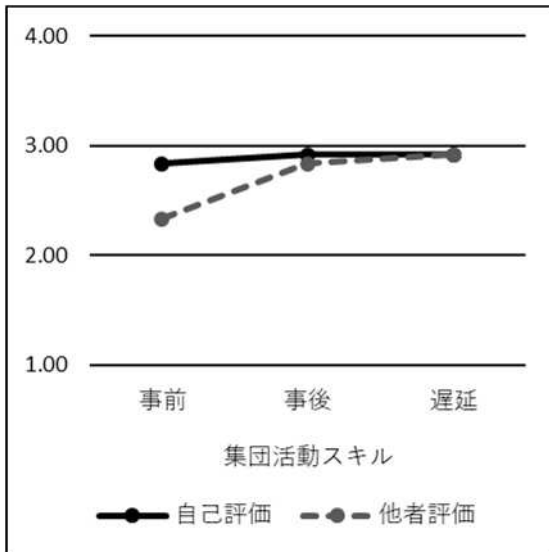


Figure 5 : 生徒 E

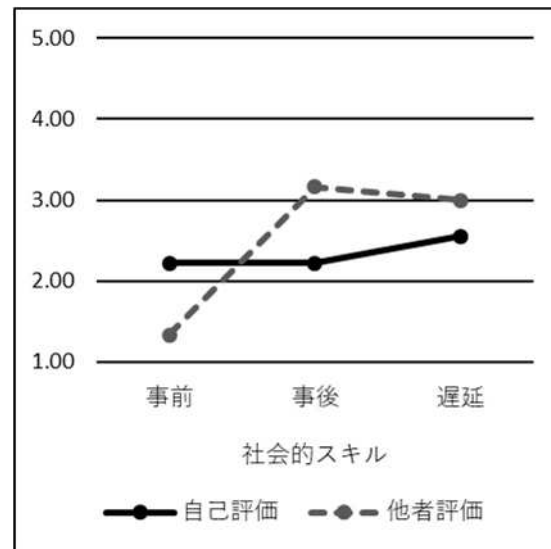
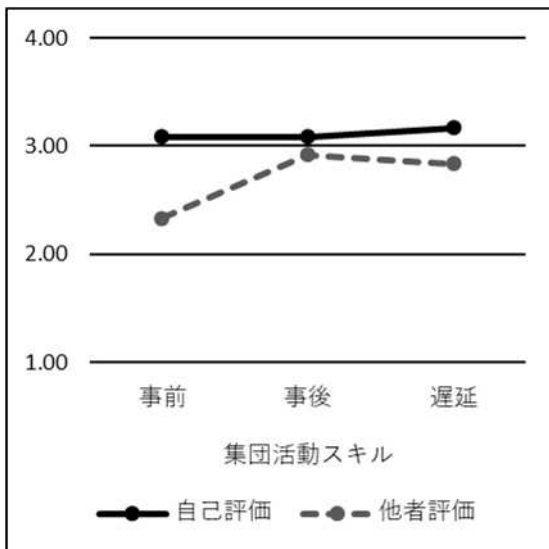


Figure 6 : 生徒 F

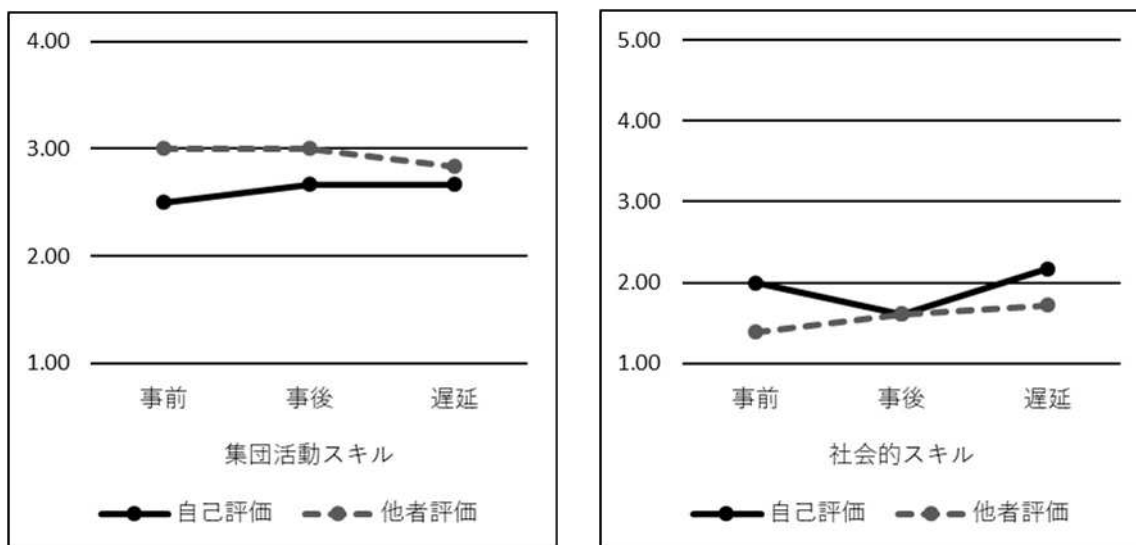


Figure 7 : 生徒 G

Figure 1～7に見られるように、集団活動スキルについて、生徒による自己評価では、SST前後の得点に大きな変化は見られなかった。また、生徒による自己評価と不登校対応教員による他者評価は概ね一致している。

社会的スキルについて、生徒による自己評価では、SST前後の得点に大きな変化は見られなかった。事後と遅延の得点の変化もなかった。しかし、不登校対応教員による他者評価では、SST前の調査と比べ、事後は6人の得点が上昇した。また、遅延でもその得点を維持していた。

4.4 生徒のふりかえりより

SST 後の生徒の意見・感想の記述式回答を、Table 7 に示す。

Table 7 : 生徒のふりかえり

実施したSST	生徒のふりかえり () 内のアルファベットは生徒を表す
伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えることがむずかしかった。(A) ・わかりやすかったし、ミニゲームがたのしかったです。(C) ・人によって伝える量が変わることを知れました。相手の立場になってわかりやすく伝えられるといいなと思いました。(E) ・伝えるのは、むずかしかったけど、どうしたら自分のおもっていることが伝わるのかをかんがえてから、相手に伝わりやすい声の大きさと話したり、ジェスチャーで伝えたりしても伝わりやすいことがわかりました。(F)
お礼を言う	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと自分の気持ちを伝えられてよかったです。「ありがとう」とか「ごめんなさい」を当たり前にするのをつけようと思いました。(C) ・お礼を言うときに、「たすかった」などをありがとうのあとにつけたすとより気持ちが伝わるんだなと思いました。「ありがとう」の言い方でも、てきとうに言うよりも、顔を見て言った方が言われる側もよこんでくれてよかったなという気持ちになれるということが知れました。今日練習したところを日常でつかえるようにしていきたいです。(F) ・相手のたちばによって、言葉づかいがかわるから、気をつけようと思いました。仲が良い人でも、感謝の気もちはわすれないようにしようと思いました。(G)
質問する	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えかたがすこしわかりました。(A) ・一方的に質問するのではなく、相手のことを考えてするのも大切なのだなと感じました。直接関係ないけれど、自分にとって必要な情報は何かと想ぞうしないと後かいですことになると思いました。(B) ・動物を当てるゲームが楽しかったです。5W1Hを思い出して、活用できたらいいなと思いました。(E)
頼む	<ul style="list-style-type: none"> ・相手への感謝の気持ちや声の掛け方の伝え方がわかりました。(A) ・だれかに何かを頼む上で押さえるべきポイントがわかりやすくてよかったです。頼むときにあらかじめ相手の都合をかく認することも、今まであまりしてこなかったので意識してみようと思いました。(B)
断る	<ul style="list-style-type: none"> ・断るとき、自分にとっても相手が納得しやすいように断るほうが言いやすそうだったのでありがたかったです。(B) ・ことわるのはむずかしいからできるようになれたらいいです。(C) ・少しずつはなせるようになってきた。(D) ・断り方によって、相手との関係を悪くしてしまう可能性があるから、気をつけようと思いました。理由もきちんと伝えて、理解してもらえそうな伝え方をしたいです。(E) ・先生に頼まれたときや、仲のいい友だちにたのまれたときの、ことわりかたがわかりました。今日はむりでも、明日なら大丈夫なときのほかのていあんもできると、あいてのきもちも考えられるのでいいとおもいました。(F)

4.5 不登校対応教員を対象としたアンケートの記述回答より

SST 終了後に、不登校対応教員に SST 前後の生徒の変化と SST 実施についてのアンケートを行った。記述回答を、Table 8 に示す。

Table 8 : 不登校対応教員を対象としたアンケートの記述回答

生徒の変化について

- ・通級したとき自分の定位置の座席に他の生徒が座っていたが、特に気にすることなく別の席で活動することができた。
- ・筆記用具を忘れてきたとき、理由と貸してほしいことをきちんと伝えることができた。以前忘れてきたときより、自信をもってはっきりした声で話すことができた。

SST について

- ・SST を行ったことで、話をするときの要点がよくわかった。日頃そのようにかみくだいて説明することはないため、ためになった。
 - ・一日別室で過ごす生徒にとって、リフレッシュにもなり、話ができる機会となった。
 - ・「SST でやったことを意識している？」と聞くと「していない」と返事する子が多いが、こういう会話をするので再度意識づけはできるので、SST を受けたのはいいきっかけだった。
-

5 考察

5.1 本研究の成果

本研究の目的は、校内ふれあい教室を利用する生徒に対する支援に SST を取り入れることで対人関係に必要なスキルが高まるかを検証することである。対人関係に必要なスキルの高まりを、集団活動スキル、社会的スキルのそれぞれ3回（事前、事後、遅延）の調査結果をもとに、分析した。

集団活動スキルについて、生徒による自己評価では、Table 5～6、Figure 1～7 から、SST 前後で得点の変化は見られなかった。その理由として、学校での集団場面への参加の少なさが考えられる。校内ふれあい教室を利用する生徒は、登校はできるが教室に入りづらい生徒であり、教室や集団の中で活動する自分の姿を想定しづらかったと考えられる。不登校対応教員による他者評価でも、同様に、得点の変化は見られなかった。

社会的スキルについて、生徒による自己評価では、3回の調査で得点に大きな変化は見られなかった。しかし、SST 後の生徒のふりかえり (Table 7) には、「相手に伝わりやすい声の大きさを話したり、ジェスチャーで伝えたりしても伝わりやすいことがわかりました」「顔を見て言った方が言われる側もよろこんでくれてよかったなという気持ちになれるということが知れました」という記述があり、生徒が SST を通して、人とコミュニケーションをとるためにはさまざまな方法があると学んだことが読み取れた。また、「相手の立場になってわかりやすく伝えられるといいなと思いました」「断り方によって、相手との関係を悪くしてしまう可能性があるから、気をつけようと思いました。理由もきちんと伝えて、理解してもらえるような伝え方をしたいです」という記述もあり、相手のことを考えた行動をとることの大切さの理解につながったと考えられる。一方、不登校対応教員による他者評価では、7人中6人の得点が事後で上昇し、その得点は遅延でも維持された。Table 8 では、不登校対応教員が「筆記用具を忘れてきたとき、理由と貸してほしいことをきちんと伝えることができた。以前忘れてきたときより、自信をもってはっきりした声で話すことができた」と回答しており、生徒の行動に変化があったことが示された。SST を実施することで、社会的スキルは高まったといえる。

5.2 本研究の課題

本研究で、集団活動スキルに高まりが見られなかった理由として、学校での集団場面への参加の少なさをあげた。集団活動スキルを高めるために、校内ふれあい教室の中で集団活動ができる場を意図的に設定する必要がある。

また、社会的スキルについては他者評価の得点が事後に上がり、遅延でも維持される傾向が見られたが、生徒の自己評価の得点に変化は見られなかった。教員が生徒の社会的スキルが高まったと感じていても、生徒自身が変化を感じておらず、自己効力感を獲得できていないと考えられる。渡邊 (2017) は、「SST で学習したことを、日常の教育場面において教師や生徒との関わりの中で、繰り返し実施することによって自己効力感を獲得する」と述べ

ている。校内ふれあい教室を利用する生徒が自己効力感を獲得し、自身の肯定的変化を実感するためには、SSTによって獲得したスキルを発揮できる場や日常的な声掛けが必要だと考えられる。

今後は、登校サポートセンターにおいて引き続きSSTを実施し、スキルの定着を図る適切なフィードバックや強化の実践を重ねて、学校でも行えるよう、実践の紹介や共有を進めていきたいと考えている。

引用文献

- 有本 美佳子 (2019). 小学生の社会的能力育成のための「北九州子どもつながりプログラム」の実践—SST の個別指導と全体指導の組み合わせを生かした学級づくり— 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院) 年報, 9, 201-208.
- 飯田 順子・石隈 利紀 (2002). 中学生の学校生活スキルに関する研究 : 学校生活スキル尺度(中学生版)の開発 教育心理学研究, 50(2), 225-236
- 石黒 康夫・星 雄一郎 (2018). 生徒が変わる 中学生のソーシャルスキル指導法
- 江畑 慎吾 (2019). 学級担任の実施による集団社会的スキル訓練の効果 中京学院大学短期大学部研究紀要 49(1), 13-18.
- 小野 昌彦 (2001). 中学生断続不登校の継続登校への支援—社会的スキル訓練を中心として— 日本教育心理学会総会発表論文集, 43(0), 611.
- 小野 昌彦・小林 重雄 (2002). 中学生不登校の再登校行動維持への主張的スキル訓練 特殊教育学研究, 40(4), 355-362.
- 菊池 章夫 (1988). 思いやりを科学する—向社会的行動の心理とスキル—. 川島書店.
- 小西 宏幸 (2010). 不登校児への社会的スキル訓練 集団活動場面における課題設定について 日本心理学会大会発表論文集, 74(0), 3EV126-3EV126.
- 佐々木 佳穂 (2007). 登校しぶりを示す女子児童へのソーシャルスキルトレーニングを用いた効果的な対応 日本教育心理学会総会発表論文集, 49(0), 86.
- 皿田 洋子 (2012). 不登校支援に SST を生かして 福岡大学研究部論集 B, 社会科学編 5, 7-13.
- 曾山 和彦 (2012). 小学校における継続的なソーシャル・スキル・トレーニング実践とその効果 教育カウンセリング研究 4(1), 37-45.
- 曾山 和彦・本間 恵美子・谷口 清 (2004). 不登校中学生のセルフエスティーム、社会的スキルがストレス反応に及ぼす影響 特殊教育学研究, 42(1), 23-33
- 文部科学省 (2016). 不登校児童生徒への支援に関する最終報告
- 文部科学省 (2019). 令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査結果
- 文部科学省 (2019). 不登校児童生徒への支援の在り方について (初等中等教育局長通知)
- 山口 豊一・荒嶋 千佳 (2018). 中学生に対するソーシャルスキル・トレーニングの実践的研究—ソーシャルスキル・学校生活適応感・自尊感情への効果— 教育実践学研, 21(0), 89-107.
- 渡邊 賢二 (2017). 中学校における学校規模の社会的スキルトレーニングの実践—社会的スキルと自己効力感の変化— 皇學館大学紀要, 55, 140-123.
- 渡辺 弥生・原田 恵理子 (2015). 中学生・高校生のためのソーシャルスキル・トレーニング

【資料1】

事前アセスメント (月 日 記録)

()中学校 ()年生 ()さん

①登校状況について

昨年度の欠席日数・今年度1学期の欠席日数・不登校の要因など

	学年			
	H29	H30	R1	R2
昨年度までの欠席数				

	月	4月	5月	6月	7月	1学期計	8月	9月	10月	11月	12月	2学期計	1月	2月	3月	3学期計	年間
	R3年度の欠席数	出席すべき日数					0						0				0
	A教室登校																
	B校内ふれあい																
	C放課後																
	欠席					0						0				0	0
不登校の要因																	
様式3より 7月末の「様子」																	
様式3より7月末の 「今後の見通しと対応」																	
その他																	

②校内ふれあいの利用状況について

利用頻度・滞在時間・校内ふれあいでの過ごし方・支援の方針など

③その他

【資料 2】

事後アンケート

お忙しい中恐縮ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. 生徒の変化についてお答えください。

① 1学期と比較し、登校状況や校内ふれあい教室の利用状況について変化のあった生徒についてお書きください。

生徒名	変化

② 実施したスキルに関わる部分で、変化のあった生徒についてお書きください。

生徒名	変化

③ その他、生徒に関わることでお気づきのことがあればお書きください。

2. ソーシャルスキルトレーニング(SST)に関して、ご意見、ご感想をお書きください。

① SSTをして、よかった点があればお書きください。

② SSTをして、よくなかった点、改善すべき点があればお書きください。

③ その他、SSTに関わることでお気づきのことがあればお書きください。

ご回答ありがとうございました。

SST「あいさつ」スキル（気持ちよいあいさつ）

○本時の目標

- ・人と仲良くなるきっかけの1つとして、あいさつができるようになる。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間を振り返り、どんなあいさつをしたか思い出す。 (おはよう・こんにちは・さようなら・いただきます…等) ・どのようにあいさつすれば「気持ちのよいあいさつ」になるのかを考える。 ・学習の目標を知る。 <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのあいさつの場面（A・B）を見て、どちらのあいさつのどんなところがよかったかを確認する。 A:相手に身体を向けずに視線を落とし、暗く小さな声であいさつする B:相手に身体を向け、目を見て、笑顔であかるいあいさつをする ・意見を発表し、あいさつスキルのポイントを確認する。 ポイント…元気な声で、はっきりと、笑顔で、相手に身体を向けて（相手の目を見て） 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは相手との関係づくりや会話のきっかけになること、相手との関係をスタートさせるためにあいさつの方法を練習することを伝える。 ・日常生活の中で自分がされたら気持ちのよいあいさつを考えさせる。 ・思春期において、あいさつの大切さを頭ではわかっている、はずかしさから上手にできない場合があることを伝える。 ・2種類の場面を演じ、あいさつの違いについて考えさせる。(手本について、台本は別紙) ・生徒から出た意見を活用し、あいさつのスキルのポイントを提示する。

<p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの場面について、あいさつのスキルの練習をする。 <p>場面1：朝、家のそばで、同級生に会ったとき</p> <p>場面2：下校しようとして校門のそばまで行ったら担任の先生にあったとき</p> <p>場面3：朝、提出物を出しに、職員室に入るとき</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>指導員と一緒に流れを確認（台本を作成）してから練習を実施する場合や、場面設定カードを準備しておき、引いたカードの場면을練習する場合など、個や集団に応じて練習方法を設定する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ (ペアで練習した場合) 練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 ・ (指導員と個別で行った場合) あいさつのスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・ 場面や立場を変えて、練習する。 ・ あいさつスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。 ・ 時間があるようであれば、さらに場合を変えて（朝→夕方・同級生に→隣の家の人に など）練習する。 ・ 悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。 ・ 練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
--	--

手本（モデリング）の台本

生徒②を登校サポートセンター指導員が行う。

生徒①はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面設定：朝、廊下で友だちとすれ違い、あいさつをする

A

お互い、歩いて近づく

生徒①：（近づいたら）おはよう

生徒②：（相手に身体を向けずに視線を落とし、暗く小さな声で）おはよう

B

お互い、歩いて近づく

生徒②：（自分から、生徒①を見て、聞こえる声で笑顔であかるく）おはよう！

生徒①：おはよう！

名前 ()

気持ちよいあいさつ

◆どのようなあいさつが「気持ちよいあいさつ」になると思いますか？

◆「あいさつ」のポイント

声は	表情は
態度は	

◆あいさつの練習をしよう！

場面① 朝、家のそばで、同級生に会ったとき

流れ：同級生と顔を合わせて、「おはよう」と声をかける

場面② 下校しようと校門のそばまで行ったら担任の先生にあったとき

流れ：先生のそばを通るとき、顔をあわせて「さようなら」とあいさつをする

場面③ 朝、提出物を出しに、職員室に入るとき

流れ：「おはようございます」とあいさつし、「提出物を出しに来ました」と要件を告げる（＋「〇〇先生お願いします」）

相手の良かった点

自分が意識した点

--	--

◆ 今日の活動を振り返って

① 「あいさつ」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「伝える」スキル（分かりやすく伝えよう）

○本時の目標

- ・誤解や間違いのないように、自分の考えや気持ちを説明できるようになる

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことがあるときに、どういう方法で伝えるとよいか考える。（話す・紙に書く・ジェスチャーなど） ・指導員の、話がうまく伝わらなかった経験を聞く。 ・話すことで大事なことは、相手に伝わることであることを確認し、3つのポイントを知る。 <p>① 言葉（内容…何を話したいのかを明確にする）</p> <p>② 態度（話し方…声量・表情・身振り手振り・アイコンタクト）</p> <p>③ 思いやり（相手を思いやる気持ちをもつ、一方的な話になっていないかについて考える）</p> <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・Bそれぞれの場面を見て気が付いた点を確認する。 A：相手の都合を考えず、話す内容も整理されていない B：相手の都合を聞いてから話しかけ、伝えたい内容がよく分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・話をすることがコミュニケーションの出発点であることを確認する。 ・話せるようであれば、生徒にも相手にうまく伝わらなかった経験を尋ねたい。 ・学習の目標を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の場面を演じ、伝え方の違いについて考えさせる。（手本について台本は別紙） ・相手や場面によって、話をするとき意識する内容は異なることを伝える。 ・同じ内容を話していても、言葉づかいや態度によって、相手にきちんと伝わらない場合があることを教える。

<p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、伝えるスキルの練習をする。以下のテーマについて、①・②の人物にそれぞれ伝える。 <p>テーマ：今週の土曜日に部活動（テニス部）の試合がある。午前8時に駅に集合。持ち物はお弁当と交通費の500円。</p> <p>① 友だち（聞いた連絡を伝える）</p> <p>② 家族（聞いた連絡を伝え、弁当と交通費の用意をお願いする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（ペアで練習した場合）練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 ・（指導員と個別で行った場合）伝えるスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>台本を作成する時間を設定するのか、テーマを伝えるのみで始めるのかなど、個や集団に応じて練習方法を設定する。</p> <p>「言葉でコピー」「目的地にたどりつけ」などのミニゲームへ置き換える場合もある。</p> </div> <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・伝えるスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。 ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。 （ミニゲームについては別紙） ・話すことは聴くことであり、相互交流が必要であることを確認する。 ・相手への思いやりがあるときちんと伝えること、この視点はSNSなどを利用する時も同じであることを伝える。 ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
---	--

手本（モデリング）の台本

生徒役を登校サポートセンター指導員が行う。

先生役はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面設定：図書委員会の担当の先生に、家の用事で明日の活動に参加できないことを伝える。

A

先生：（忙しそうに作業している）

生徒：（いきなり）あの一。私、明日委員会行けないんだ一。

B

先生：（忙しそうに作業している）

生徒：先生、すみません。今、お話ししてよろしいですか？

先生：（手を止め）どうぞ

生徒：明日、親戚の家に出掛けなくてはいけなくなったので、図書委員会の活動をお休みさせてください

先生：はい、わかりました

ミニゲーム

① 「言葉でコピー」

- ・伝達係を1人決める（伝える練習をする生徒）
- ・伝達係はカードを1枚引き、カードに描かれた絵を言葉で説明する
- ・他の人は、説明を聞きながら紙に絵を描いていく
- ・お互いに絵を見せ合い、答え合わせをする

② 「目的地にたどりつけ」

- ・伝達係を1人決める（伝える練習をする生徒）
- ・伝達係には道順が記入された地図を、他の人には道順が記入されていない地図を配る
- ・伝達係は記された道順を言葉で伝える
- ・他の人は、説明を聞きながら地図に道順を書き入れる
- ・正しい道順でたどり着けたか答え合わせをする

名前 ()

分かりやすく伝えよう

◆話すことで大事なことは、 _____

そのための3つのポイント

◆伝え方のちがいについて考えよう

A・Bの伝え方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A

B

◆伝え方の練習をしよう！

場面：今週の土曜日に部活動（卓球部）の試合がある。
午前8時に駅に集合。持ち物はお弁当と交通費の500円。
ユニフォームを着てくること。

伝える人：①友だち（聞いた連絡を伝える）
②家族（弁当と交通費の用意をお願いする）

相手の良かった点

自分が意識した点

◆ 今日の活動を振り返って

① 「伝える」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「聴く」スキル（聴き名人になろう！）

○本時の目標

- ・耳と目と心を使って人の話を聴けるようになる。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聴くとき、どのような態度が適切か考える。 ・聴くスキルの4つのポイントを知る。（相手に身体を向ける・相手の目を見る・うなづく、相づちを打つ・最後まで話を聴く） <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・Bそれぞれの聴く様子を見て気が付いた点を確認する。 場面：昨日見た映画について友だちに話す A：よそ見をし、興味なさそうに聞く B：相手の話に興味をもち、うなづきながら聴く ・意見を交流し、聴くスキルのポイントを再確認する。 <p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、話す役と聴く役にわかれて、聴くスキルの練習をする。（役を交代しながら練習する） <ul style="list-style-type: none"> ・最近うれしかったできごと ・好きな食べ物とその理由 ・行ってみたい場所とその理由 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個や集団に応じて練習方法を設定する。また、「すごろくトーク」などのミニゲームの中で練習する方法もある。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・（ペアで練習した場合）練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近あった「話を聴く場面」を思い出させる。 ・生徒から出た内容に関連付けて聴くスキルのポイントを提示し、説明する。 ・学習の目標を伝える。 ・2種類の聴き方を演じ、聴き方の違いについて考えさせる。（手本について台本は別紙） ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・聴くスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。 ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。

<ul style="list-style-type: none"> ・（指導員と個別で行った場合）聴くスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を再度提示し、聴くスキルはコミュニケーションの基本であることを伝える。 ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
--	--

手本（モデリング）の台本

生徒②役を登校サポートセンター指導員が行う。

生徒①役はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面：昨日見た映画について友だちに話す

A

生徒①：昨日映画を見に行ってきたんだー

生徒②：（相手の方を見ず、生返事）ふーん

生徒①：好きな俳優が出ているって聞いてとってもたのしみだったんだけど、

生徒②：（上に同じく、時間を気にしたり姿勢悪く聞いたり）うん

生徒①：最初の方にちょっとだけでてきただけで。

生徒②：（上に同じく興味なさそうに）ふーん

B

生徒①：昨日映画を見に行ってきたんだー

生徒②：（相手を見てうなずきながら笑顔で）へえ！そうなんだ！

生徒①：好きな俳優が出ているって聞いてとってもたのしみだったんだけど、

生徒②：（上に同じく、話を聴きながら適度にあいづちをうつ）うんうん

生徒①：最初の方にちょっとだけでてきただけで。

生徒②：（上に同じ）えっ！そうだったんだー！内容はどうだったの？

名前 ()

聴き名人になろう！

◆「聴き方」4つのポイント

◆話の聴き方のちがいについて考えよう

A・Bの聴き方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A	B
---	---

◆「聴く」練習をしよう！

話す内容

- ・最近うれしかったできごと
- ・好きな食べ物とその理由
- ・行ってみたい場所とその理由

相手の良かった点

自分が意識した点

--	--

◆ 今日の活動を振り返って

① 「聴く」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「お礼を言う」スキル（感謝の気持ちを伝えよう）

○本時の目標

- ・感謝の気持ちを言葉で伝えられるようになる。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」と言った経験・言われた経験を振り返る。相手に何か「してもらった（世話になった）」場面と言うことが多いことを確認する。 <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・Bそれぞれの様子を見て、気が付いた点を確認する。 場面：ものを借りる A：（ぼそっと）「ありがとう」 B：（笑顔ではっきりと）「ありがとう！助かった」 ・意見を交流し、「お礼の言い方」のポイント（タイミングよく・感謝の気持ちが相手に伝わるように）と具体的な流れを確認する。 流れ：素直にありがとうと伝える→感謝の内容を言う→○○のおかげで→言葉を加える「助かった」「嬉しかった」 <p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、お礼を言うスキルの練習をする。 ① AにBを借りる「○○を貸してほしいんだけど…」 ② AにBを取ってもらう「○○をとって」 ③ Aに明日の予定を教えてもらう「明日の予定を教えて」（A 友だち・顔見知りの同級生・先輩・先生・家族） （B 消しゴム・ノート・色鉛筆・三角定規） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でありがとうと言った経験・言われた経験を思い出させる。 ・感謝を言葉で表現すると人間関係が円滑になる場合があることを伝える ・学習の目標を伝える。 ・指導員が2種類のお礼の言い方を演じ、言い方の違いについて考えさせる。 （手本について台本は別紙） ・「言葉」だけでなく、声音・表情（態度）が大切であることを伝える ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・お礼を言うスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。

<p>台本を書いてから始めたり、A・Bそれぞれのカードを引いてはじめてりと、個や集団に応じて練習方法を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(ペアで練習した場合) 練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 ・(指導員と個別で行った場合) 聴くスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手によって言い方がかわることもあることを押さえる。 ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。 ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
---	--

手本（モデリング）の台本

生徒①役を登校サポートセンター指導員が行う。

生徒②役はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面：ものを借りる

A

生徒①：ノートを貸してほしいんだけど…

生徒②：いいよ（ノートを渡し）はい、どうぞ！

生徒①：(ぼそっと) ありがとう（奪い取るように受け取る）

B

生徒①：ノートを貸してほしいんだけど…

生徒②：いいよ（ノートを渡し）はい、どうぞ！

生徒①：(笑顔ではっきりと) ありがとう！本当に困っていたから、すごく助かる！

名前 ()

感謝の気持ちを伝えよう

◆日常生活の中で、どんなときに「ありがとう」と言いますか？また、「ありがとう」言われるのはどんなときですか？

◆お礼の言い方のちがいについて考えよう

A・Bのお礼の言い方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A

B

◆「聴く」練習をしよう！

話す内容

- ① A に B を借りる
- ② A に B を取ってもらう
- ③ A に明日の時間割や持ち物を教えてもらう

相手の良かった点

自分が意識した点

◆ 今日の活動を振り返って

① 「お礼を言う」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「質問する」スキル（上手な質問の仕方）

○本時の目標

- ・自分がわからないことや気になることを質問できるようになる。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の話聞き、自分の「聞きたいけれど聞けなかった」経験を思い出す。 ・質問するスキルを学ぶことで、さらに知ることができより深く学べること、コミュニケーションがスムーズになることを知る。 <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・B・Cそれぞれの場面を見て、気が付いた点を確認する。 A：分からないところがあっても質問しない B：聞いている途中で割り込んで質問する C：話の分からない部分を質問する ・意見を交流し、質問するスキルのポイント（質問の内容・質問の理由）を確認する。また、質問をしてよいか相手の都合を確認し、質問、お礼を言う流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員が、友だちとの会話や授業の内容で聞きたいけれど聞けなかった経験を話す。 ・中高生の時期は、他者からの評価が気になりやすいので、はずかしい、緊張する、間違えたらどうしようと不安になる年齢であることを伝える。 ・質問するスキルを学ぶメリットと学習の目標を伝える。 ・3種類の場面を演じ、それぞれの違いについて考えさせる。（手本について台本は別紙） ・ポイント以外にも、相手の話を聞き、タイミングよく質問することが大切であると伝える。

<p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、質問するスキルの練習をする。 <p>① 自分が読んでいないマンガについて、おもしろかったと話をする友だちに質問する。</p> <p>② 欠席した日に決まった、クラスで歌う合唱曲についてクラスの生徒に質問する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>台本を作成する時間を設定するのか、テーマを伝えるのみで始めるのかなど、個や集団に応じて練習方法を設定する。</p> <p>「質問ゲーム」「同じ絵さがし」などのミニゲームへ置き換える場合もある。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・(ペアで練習した場合) 練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 ・(指導員と個別で行った場合) 伝えるスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・質問するスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。 <p>(ミニゲームについては別紙)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネット上のコミュニケーションにも援用でき、トラブルを防いだり、関係を良好に維持することにもつながることを伝える。 ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
---	---

手本（モデリング）の台本

生徒①役を登校サポートセンター指導員が行う。

生徒②（先輩）役はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面設定：部活動の先輩に、今日の練習のまとめ役を頼まれた。

A

生徒②（先輩）：今日、部活に行けないんだ。私の代わりにまとめ役をお願い。

内容は、いつもどおりね！（去っていく）

生徒①：「えっ…あっ…」（去っていく先輩を見送る）「いつもどおりって…？」

B

生徒②（先輩）：今日、部活に行けないんだ。私の代わりにまとめ役をお願い。

内容は…

生徒①：（話をしている途中で割り込む）「いつもどおりですね！」

生徒②：あっ…うん。それで、顧問の鈴木先生なんだけど…

生徒①：（話をしている途中で割り込む）「鈴木先生はいらっしゃいますか？」

生徒②：……

C

生徒②（先輩）：今日、部活に行けないんだ。私の代わりにまとめ役をお願い。

内容は、いつもどおりね！（去っていきこうとする）

生徒①：分かりました。質問してもいいですか？

生徒②：うん。どうぞ

生徒①：場所は、第2グラウンドですか？

生徒②：そうだよ。第1グラウンドはサッカー部が使うって言ってたよ

生徒①：時間は5時までで、基礎練習10分と試合形式で30分でいいですか？

生徒②：うん、そうそう。よろしくね

生徒①：はい。分かりました！ありがとうございました！

ミニゲーム

③ 「質問ゲーム」

- ・ 指導者（複数で行う場合は生徒でも可）が1枚カードを引く
- ・ ゲームの参加者は、カードについて、5つまで質問をする
「食べ物ですか?」「何色をしていますか?」「生き物ですか?」「やわらかいものですか?」など
- ・ 参加者が、カードの答えだと思える言葉を言う（答え合わせ）
- ・ 不正解であれば、再び5つまで質問ができる

④ 「同じ絵さがし」

- ・ 2人組になる
- ・ お互いの手元が見えないようにする
- ・ 微妙に異なる絵（向きがちがう・もっているものがちがう）が7つ、同じ絵が1つ（個数は個や集団の状況に応じて）描かれたプリントを配る
- ・ お互いに質問しあいながら、完全に同じ絵を1つ見つけだす

名前 ()

上手な質問の仕方

◆「質問する」スキルのポイント

	5W1Hにそって、質問の内容を言葉にする Who (だれが)・When (いつ)・Where (どこで)・ What (なにを)・Why (なぜ)・How (どのように)
	なぜそう思ったのか、質問の意図を伝える

◆質問の基本の流れ

- (1) 質問をしてよいか、相手の都合を確認する
- (2) 質問する
- (3) (さらに質問する)
- (4) お礼を言う

◆質問の仕方のちがいについて考えよう

A・B・Cの質問の仕方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A

B

C

◆質問の練習をしよう！

- (1) 自分が読んでいないマンガについて、おもしろかったと話をする友だちに質問する。
- (2) 欠席した次の日の予定(時間割と持ち物・宿題)をクラスの生徒に質問する。

相手の良かった点

自分が意識した点

◆ 今日の活動を振り返って

① 「質問する」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「頼む」スキル（助けを借りたいときもある）

○本時の目標

- ・人をお願いして協力してもらうには、どう声をかければよいか知る。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の助けを借りたいときを思い出す。 ・人に頼みごとをするときに、どんなことに注意すればよいか考える。 ・意見を交流し、頼みごとをするスキルのポイントを確認する。（頼みごとを伝える・内容を伝える・理由を伝える・相手の都合を優先する・感謝の気持ちを伝える・断られることを想定する） ・授業の目標を知る。 <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・Bそれぞれの場面を見て気が付いた点を確認する。 A：頼みごとをする言葉や態度ではないため、相手に断られる B：相手の都合を聞き、丁寧に頼み、お礼を言う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料を運ぶのを手伝って」という日常的なシーンから、仲間に入れてもらう、協力を求めるなど、さまざまな場面があることを確認させる。 ・自分が頼みごとをされるとしたら、どのような言い方や態度だったら気持ちよく協力できるかを考えさせる。 ・学習の目標を伝える。 ・2種類の場面を演じ、伝え方の違いについて考えさせる。（手本について台本は別紙） ・同じ頼み事であっても、言葉づかいや態度によって、相手に断られる場合があることを教える。また、それぞれの事情があるため、頼みごとをしても必ずしも聞いてくれるとは限らないことも伝える。

<p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、頼むスキルの練習をする。 <p>③ 欠席した翌日、机に国語のプリントが入っていたが、何を書いたらいいのか分からないところがある。そこに、友だちのAさんが通りかかった。Aさんのプリントを見せてもらいたい。</p> <p>④ 担任の先生からプリントのとじ作業を頼まれたが、かなりの量があり、時間までに終わりそうにない。そこに、クラスの友だちが通りかかった。手伝ってもらいたい。</p> <p>⑤ 新しいクラスになった。下校のとき、同じクラスのBさんが何人かと一緒にいる。帰り道が同じなので、仲間に入れてもらいたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>台本を作成する時間を設定するのか、テーマを伝えるのみで始めるのかなど、個や集団に応じて練習方法を設定する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・(ペアで練習した場合) 練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。 ・(指導員と個別で行った場合) 伝えるスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。 <p>4. ふりかえりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・頼むスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。 ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。 ・頼みごとをしたり、されたりすることで、とは日常ではよくあることで、互いに気持ちよく協力できるように、スキルを活用すると良いことを伝える。 ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。
--	---

手本（モデリング）の台本

生徒役を登校サポートセンター指導員が行う。

先輩役はできれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面設定：図書委員会の工作中、先輩に、バーコード読み取る機械の使い方を教えてもらいたい。

A

先輩：(忙しそうに作業している)

生徒：ねえ、これどうやるの？

先輩：(むっとして) いま忙しい！

生徒：えー。教えてよー

B

先輩：(忙しそうに作業している)

生徒：先輩、今大丈夫ですか？

先輩：(手を止め) どうしたの？

生徒：初めて委員をするんですかど、この機械の使い方がわからないので、教えていただけませんか？

先生：うん。いいよ。いま別の仕事をしているから、終わってからでいい？

生徒：はい。ありがとうございます。

名前 ()

助けを借りたいときもある

◆ 「頼む」 ときの6つのポイント

◆ 頼み方のちがいについて考えよう

A・Bの他の見方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A	B
---	---

◆ 「頼む」 練習をしよう！

- ① 欠席した翌日、机に国語のプリントが入っていたが、何を書いたらいいのか分からないところがある。そこに、友だちのAさんが通りかかった。Aさんのプリントを見せてもらいたい。
- ② 担任の先生からプリントのとじ作業を頼まれたが、かなりの量があり、時間内に終わりそうにない。そこに、クラスの友だちが通りかかった。手伝ってもらいたい。
- ③ 新しいクラスになった。下校のとき、同じクラスのBさんが何人かと一緒にいる。帰り道が同じなので、仲間に入れてもらいたい。

相手の良かった点

自分が意識した点

--	--

◆ 今日の活動を振り返って

① 「頼む」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

SST「断る」スキル（断りたいけれど…）

○本時の目標

- ・自分の意にそぐわないときに、相手との関係を大切にしながらも、上手に断れるようになる。

○指導の流れ（生徒の状況に合わせて30分～50分の間で実施）

学習活動	指導上の留意点等
<p>1. 学習の目標を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気が進まない誘いを断ることができなかった経験や断りにくい状況の経験を思い出す。 ・断るスキルを学ぶことで、相手との関係を大切にしながらも、自分の気持ちを伝えられるようになることを知る。 <p>2. 手本を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A・B・Cそれぞれの場面を見て、気が付いた点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> A: あいまいに返事をし、断れていない B: 相手を不快にさせるような断り方 C: 相手の気持ちを大切にしたいうえで行けない理由を伝え、断る ・上手な断り方の4つのポイントを整理する。（できないと伝える・相手の意に沿わないことを謝る・断る理由を伝える・かわりの提案をする） <p>3. 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、断るスキルの練習をする。 <ol style="list-style-type: none"> ① Aさんに今日の放課後あそぼうと誘われたが、家族で親せきの家に行く予定があり、断りたい。 ② Bさんに、日曜日に映画に行こうと誘われたが、先にCさんの家で一緒にゲームをする約束をしており、断りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者が断れなかった経験を話し、生徒の過去の経験を思い出させる。 ・学習の目標を伝える。 ・3つの断り方を演じ、それぞれの違いについて考えさせる。（手本について台本は別紙） ・断る側と断られる側、それぞれの感情に注意を向けさせる。 ・2人以上の参加者がいればペアで、個別での取組であれば指導員と行う。 ・断るスキルのポイントを意識しながら練習するよう促す。

③ Dさんに、遊園地に行こうと誘われたが、乗り物が苦手であり、断りたい。

台本を作成する時間を設定するのか、テーマを伝えるのみで始めるのかなど、個や集団に応じて練習方法を設定する。

- ・(ペアで練習した場合) 練習後、相手の良かった点をワークシートに記入し、伝える。
- ・(指導員と個別で行った場合) 伝えるスキルについて、自分の意識した点をワークシートに記入する。

4. ふりかえりを行う

- ・学習のまとめとして、ワークシートの「振り返り」に記入する。

- ・悪い点ではなく、よい点に注目させるよう声をかける。

- ・ネット上で断るときも、ポイントは同じであることを伝える。
- ・練習すれば練習するほど上手くなること、日常生活で活用してほしいことを伝える。

手本（モデリング）の台本

生徒②を登校サポートセンター指導員が行う。

生徒①は、できれば校内ふれあいを利用する生徒にお願いしたい。

場面設定：三角定規を忘れた他のクラスの友だちに貸してほしいと頼まれたが、同じ時間、自分のクラスの授業でも使うことになっているため、断りたい。

A

生徒①：「ごめん～！三角定規を忘れちゃって、次の時間貸してくれない？」

生徒②：（小声でもごもごと）「えっ…あつ…」

生徒①：「ん？いい？」

生徒②：（小声でもごもごと）「うーん…」

生徒①：「すっごく困ってて！お願いっ」

B

生徒①：「ごめん～！三角定規を忘れちゃって、次の時間貸してくれない？」

生徒②：（起こった口調で）「貸せるわけないじゃん！」

生徒①：「えっ…」

C

生徒①：「ごめん～！三角定規を忘れちゃって、次の時間貸してくれない？」

生徒②：「ごめんね。自分のクラスでも次の授業で使うことになっていて、貸せないんだ。」

生徒①：「そっか、それなら仕方ないね。ありがとう！」

名前 ()

断りたいけれど…

◆ 断り方のちがいについて考えよう

A・B・Cの断り方を見て、よいところや気になったところをそれぞれ書き出してみよう。

A	B	C
---	---	---

◆ 上手に断る 4つのポイント

◆ 「断る」練習をしよう！

- ① Aさんに今日の放課後あそぼうと誘われたが、家族で親せきの家に行く予定があり、断りたい。
- ② Bさんに、日曜日に映画に行こうと誘われたが、先にCさんの家で一緒にゲームをする約束をしておき、断りたい。
- ③ Dさんに、遊園地に行こうと誘われたが、乗り物が苦手であり、断りたい。

相手の良かった点

自分が意識した点

◆ 今日の活動を振り返って

① 「断る」のスキルのポイントが分かりましたか？

1 まったくわからない 2 わからない 3 わかった 4 よくわかった

② この活動を通して、分かったことや感じたことがあれば書いてください。

校内ふれあい教室での支援に関する研究
—ソーシャルスキル・トレーニングの実践—

〔執筆 者〕	四日市市登校サポートセンター	指 導 員	堀 綾香
	四日市市登校サポートセンター	指 導 員	上原 啓江
	四日市市登校サポートセンター	指 導 員	前田 怜子
	四日市市登校サポートセンター	指 導 員	野中 純子
〔指導・助言〕	国立教育政策研究所	総括研究官	山森 光陽

研究調査報告 第414集

校内ふれあい教室での支援に関する研究
—ソーシャルスキル・トレーニングの実践—

発 行 令和4年3月7日
発行所 四日市市教育委員会教育支援課
四日市市諏訪町2番2号
電話 (059) 354-8149
FAX (059) 359-0280
